

岩手県野田村の支援活動報告書(2011年7月2日)

今回はいつもの瓦礫撤去作業に加えて、仮設住宅への引っ越しの手伝い、イベントの手伝いと盛り沢山の内容に加え、18時間かけていらしゃった NVNAD の関西チームの方と一緒に活動出来るとあって、この日のテーマは「交流」のような気がしていました。

今回は学生 23 名、市民 17 名、教員 1 名の計 41 名(男性 21 名、女性 20 名)で、初参加の方が多かったため、行きバスでのオリエンテーションは李先生がしっかりと行って下さいました。

今回は内容が盛り沢山ということで班編成が細かくなりました。引越しのお手伝いには「下安家地区 11 名」「米田地区 6 名」「門前小路地区 2 名」「泉沢地区 2 名」の計 21 名。イベントのお手伝いには 5 名、瓦礫撤去に 15 名となりました。細かい班編成でしたが、事務局の学生メンバーや経験者をうまく振りわけることができました。

私が入った下安家地区の班には NVNAD の関西大学の学生が 4 人程加わり 10 軒の住宅を訪問しました。はじめのうちは警戒心や遠慮の気持ちがあるのか「何かお手伝いできることはありませんか？」とお伺いしてみても「大丈夫です」の声ばかりでした。行きバスで李先生が「仕事を作ることも重要です」とおっしゃっていたものの、無理やりに住民の方からニーズを絞り出すのも…と呆然と立ち尽くす場面もありました。しかし食器棚や机、イスを組み立ててください。との要望があると、慣れない作業でありながらも、協力し合い 1 つ 1 つの家具を作り上げるのに没頭しました。



道の駅おおのでの集合写真



協力して一緒にイスを組み立てる

お昼は米田地区の公民館でお弁当と特製のお豆腐をいただきました。足りなかったらとやわらかいパンまでいただきました。本当においしく、手作りであたたかみのある昼食を食べたみなさんの顔からは自然と笑みがこぼれていました。各班の進行状況を聞くと、引越しの手伝いに向かった 4 班はやはり仕事が少なかったため、住民の方とお話をしたり、子供達と遊んだりなど「交流」していたようです。一方瓦礫撤去班は人がいくらいても足りないとのことで、引越し班の男性は瓦礫撤去班に加わってもらうことになりました。



手作りのおいしいお弁当



夢中でお弁当を食べています！

午後の下安家地区に戻ってみると荷物の搬入が続々とあり、住民の方から「組み立ててもらえませんか？」と声をかけられるようになり、午前中同様家具の組み立てに没頭しました。

帰りのバスで各班の今日1日を聞いてみたところ、引越し班は「ニーズを作り出すことが出来なかった」「どうしていいか分からなかった」「ボランティアの難しさを痛感した」など、いつもの黙々と行う瓦礫撤去とは違い、「人」と関わる難しさに直面したようです。

瓦礫撤去班は午後から人員を増やしたものの終わることが出来ず、「7月6日にまた来るので、ぜひ私たちにやらせて下さい！」と申し出たところ「是非お願いします。」と快く言っていたようで、家主さんとの信頼関係を築けたようです。

イベント班は炊き出しには人が集まり盛況だったようですが、物資配給の際には「セール品を狙う主婦」のような、もの凄い勢いだったらしく驚いてしまったようです。何回も列に並ぶ方も見受けられたようです。仮設住宅で暮らしていくということは自立して生きていかなければならないということです。「生きる」ことの現実がそこにはあったのかもしれない。



難しい棚作りに取り組む



下安家地区の通称“まったけ”さんと

今回全ての班が野田村の方と様々な形で「交流」したようです。今日の引っ越しで避難所にいた方は全員仮設住宅へ移り、新しい生活のスタートラインにたちました。私達チーム・オール弘前も「野田村支援活動」から「野田村交流活動」へと新しいステージのスタートラインにたったのかなと思いました。また野田村の方から「弘前の皆さんいつもありがとう」と声をかけられた方がいたようです。このような「絆」は今まで私たちがコツコツと行ってきたことが作りあげてきたものだと思います。感想の中で「ボランティアというよりおばあちゃん家にお手伝いに来たみたいだった。」とおっしゃった方がいました。そんな風に互いが互いを思える関係をこれから先築いていけたらなと思いました。

野田村の方のニーズは日々変化していきます。今までとは違う要望に戸惑うこともあるかもしれませんが1人1人自分たちにしか出来ないこと、私たちにしか出来ないことがあるはずです。その1人1人がもつ力を出し合い、チーム・オール弘前間での「交流」、NVNADの方たちとの「交流」、そして野田村の方との「交流」を通してこれからも野田村の復興に携わっていきたいと思いました。



NVNAD、チーム・オール弘前、野田村との交流

(担当 目黒 杏奈)